
日本村落研究学会 研究通信

(No.267 2023. 7. 7)

JARS (Japanese Association for Rural Studies)

Newsletter (No.267, July 7, 2023)

(事務局) 藤村美穂(総務担当)・福本純子(会計担当)・望月美希 (Web 担当)

連絡先：〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄1

佐賀大学 農学部 藤村美穂研究室内

TEL: 0952-28-8728 E-Mail: 2021sonkenjim@gmail.com

郵便振替口座：00150-9-387521 日本村落研究学会

ホームページ・アドレス：<http://rural-studies.jp/>

- I. 理事会報告 (2023 年度第 7 回理事会) II. 第 71 回 (2023 年度) 大会の案内
III. 第 71 回 (2023 年度) 大会 自由報告の募集について (再掲)
IV. 日本村落研究学会賞選考委員会報告 V. 地区研究会活動報告
VI. 新入会員の紹介 VII. 学会費納入のお願い
-

I. 理事会報告

【2023 年度第 7 回理事会】

日時：2023 年 4 月 26 日 (水) 20:00～ (Web 会議)

出席者：(敬称略)

秋津元輝、奥井亜紗子、越智正樹、小内純子、佐藤洋子、佐久間政広、高村竜平、立川雅司、土居洋平、原山浩介、福田恵、藤井和佐、牧野厚史、三須田善暢、山内太

[事務局] 藤村美穂、福本純子、望月美希 計 17 名

1. 事務局

会員動向：以下の会員異動について承認された。

○入会：6名

氏名	所属	会員種別	紹介者
Polak Rottmann Sebastian	ドイツ日本研究所	正会員	秋津元輝
立柳 聡	福島県立大学看護学部	正会員	事務局推薦

柿出 浩輔	広島大学総合科学部	院生会員	福田恵
栗原 友佳	多摩大学大学院	院生会員	徳野貞雄
高橋 健太郎	一橋大学大学院社会学研究科	院生会員	伊藤将人
間藤 優太	東京農工大学農学府	院生会員	轟海松

○退会：5名

森田泰光（正会員）、山村靖彦（正会員）、大友信勝（正会員）、和智達也（正会員）、末原達郎（正会員）

会員数：418名

2. 各種委員会報告

(1) 研究・年報編集委員会

①2023年度の大会テーマセッションの準備状況について報告した。靄理恵子会員をコーディネーターとして、準備を進めていること、今後の準備研究会の見通しについても確認した。

②2023年度大会について、自由報告の参加申込に関わって、申込方法とスケジュールについて検討を行った。また、大会実施までのスケジュール観について確認した。

(原山浩介)

③『年報 村落社会研究第59集』編集の進捗について、第58集編集時よりも査読用原稿の提出状況がよくないと報告があった。

(藤井和佐)

(2) 村研ジャーナル編集委員会

① 58号について

論文2本、特別寄稿1本、企画記事（調査実習）1本、研究会報告1本、研究奨励施賞講評および受賞コメント、書評3本を掲載した64頁の号が2023年5月中に会員に発送見込みであることが報告された。

② 59号（2023年10月刊行予定）について

企画記事2本（1：東アジア地方社会にみる人口移動と親族文化の変容」、2：村研年報57週『農村社会の行方』紹介・論点の提起）、研究会報告、書評等が掲載予定であることが報告された。

③ その他

i 60号以降について

既に理事会・総会で決定されたように、60号（2024年4月刊行予定）より紙媒体の発刊が停止される。それに伴い、60号以降の最低・限度頁数の目安について委員会で検討中であることが報告された。

また、現在査読中の論文が1本・新規投稿論文が2本と、投稿論文の数が少ない状況が続いているため、引き続き大会報告者等への投稿の呼びかけを行っていることが報告された。それ以外にも、企画記事・研究会報告等の検討が進められていることが報告された。

ii 英語投稿の受付について

2024年1月以降、英語論文の投稿を受け付けられるように、国際交流委員会の協力を得ながら準

備が進められていることが報告された。

iii 村研ジャーナル編集委員会主催研究会の開催について

6月18日(日)に、村研ジャーナル編集委員会主催研究会(関東地区研究会との合同開催)を行うこと、成果は59号に掲載される予定であることが報告された。また、報告者・コメンテーターについて、会員については委員旅費と同じ水準(実費の7割)、非会員については実費を支給することが提案され、了承された。

(土居洋平)

(3) 国際交流委員会

下記の日程でアジア農村社会学会が開催予定であることが報告された。今後の発表エントリーや参加登録など、追加情報に関しては、ウェブサイトやメーリングリストを通じて会員に周知するので、ご注意頂きたい。

○第7回アジア農村社会学会(ARSA)大会

日程:2023年12月16日(土)~18日(月)

場所:暨南大学(じなんたいがく、中国広州市)

形式:対面

テーマ:Recasting Peasantries for a Sustainable Future in Rural Asia:

Multiple trajectories of modernization

(立川雅司)

(4) 学会研究奨励賞選考委員会

研究奨励賞への推薦が、論文部門、著書部門共に、今現在1本も無い状態であることが報告された。そして締切は5月末であり、まだ時間があるので、会員へのメール連絡にて、奨励賞への積極的な推薦を再度会員の皆様に呼びかけたい、ということが報告された。

(山内 太)

3. その他委員報告

農業経済学関連学会協議会について秋津元輝委員より、社会系コンソーシアムについて小内純子委員より、GEAHSS(人文・社会科学系男女共同参画推進学協会連絡会)について佐藤洋子委員より、委員会の活動報告がなされた。

4. 倫理規定策定の準備状況について

日本村落研究学会の倫理綱領の策定に関する作業を開始し、2023年12月開催の第71回大会の総会において、日本村落研究学会の倫理綱領を議題として審議することを目指して原案作成作業を進めている。なお、総会での審議の前に9月もしくは10月くらいの時期に原案を会員のみなさまに示し、意見を募ることを予定している。

(佐久間政広)

5. 2023年度大会(第71回大会)について

原山浩介研究委員長より、テーマセッションの準備状況について報告があった。

福田恵大会委員長より、エクスカージョンを含めた対面方式で大会の準備が進められていること、

その進捗状況についての報告があった。

6. 2024年度大会について

大会候補地の状況、開催可能日程、テーマセッションの準備状況などについて報告と審議がおこなわれた。

7. その他

事務局より、学会HPがリニューアルされたことについて報告があった。

II. 第71回(2023年度)大会の案内

第71回(2023年度)の日本村落研究学会大会は、12月1日(エクスカーショ、金)・2日(土)・3日(日)の日程で、島根県安来市で開催します。(大会実行委員長:福田恵会員)

【開催地について】

2023年度の第71回大会は島根県安来市で開催します。安来市は島根県東部に位置し鳥取県とも接する雲伯(出雲と伯耆)の要衝地であり、宍道湖・中海・日本海をつなぐ海上の拠点としても栄えました。安来節やどじょうすくい踊りは、そうした背景の中で生まれてきます。市内北部に市街地が集中し、その周囲に平野部が広がっており、南部には小規模な町場(広瀬や母里など)と山間部の諸集落が控えています。大会会場となる鷺の湯温泉は、平野部と山間部のつなぎ目にあり、かつて尼子氏の拠点だった月山富田城や藩政期の広瀬藩(松江藩の支藩)の元城下にほど近い場所にあります。敷地内には、足立美術館(アメリカの日本庭園専門誌で20年連続一位)や安来節の施設(安来節演芸館、安来節屋)もあり、県内有数の観光地となっています。

地方開催はコロナ禍を挟んで4年ぶり、島根での開催は実に37年ぶりとなります。会員のみなさまの大会へのご参加を心よりお待ちしております。

【大会概要】

◆期日: 2023年12月1日(金)、2日(土)、3日(日)

◆会場: 夢ランドしらさぎ(メイン会場: 会場A+会場B)

〒692-0064 島根県安来市古川町835 TEL:0854-28-6300

※パーテーション(移動式間仕切り)でA会場とB会場に分割します。

◆宿泊: 鷺の湯温泉宿泊施設(さぎの湯荘は懇親会場)

さぎの湯荘 〒692-0064 島根県安来市古川町478-1 TEL:0854-28-6211

夢ランドしらさぎ 〒692-0064 島根県安来市古川町835 TEL:0854-28-6300

竹葉 〒692-0064 島根県安来市古川町438 TEL:0854-28-6231

安来苑 〒692-0064 島根県安来市古川町478 TEL:0854-28-6262

※夢ランドしらさぎは、他の宿から700メートル(徒歩10分弱)離れています。

【大会スケジュール】

◆12月1日(金) エクスカーション

- 13:30 安来駅集合
※集合後、借り上げバスにて移動
※足立美術館および月山富田城（安来市立歴史資料館）行き希望者は専用バス乗り場まで案内します。
- 14:00～15:00 道の駅 あらエッサ （地元農産物、海産物の見学）
- 15:30～17:00 和網博物館 （鉄に関する歴史と地域づくりの見学）
- 17:30 大会会場・宿泊所鷺の湯温泉着
- 18:00 夕食（その後、理事会・各種委員会など）

◆12月2日(土) 自由報告・地域セッション・総会

- 7:00～ 朝食（各宿泊施設）
- 8:15～ ※鷺の湯温泉から夢ランドしらさぎまで、車による送迎
- 8:45～ 開会式（夢ランドしらさぎメイン会場）
- 9:00～11:50 自由報告（A会場、B会場）
- 11:50～12:50 昼食（弁当配布：各会場）
- 12:50～15:00 自由報告（A会場、B会場）
- 15:00～15:15 休憩・準備
- 15:15～16:45 地域シンポジウム（メイン会場）
- 16:45～17:00 休憩・準備
- 17:00～18:30 総会・理事選挙（メイン会場）
- 19:00～ 懇親会（さぎの湯荘・大宴会場）
※懇親会終了後、夢ランドしらさぎで宿泊する方は送迎します。
- ※12月2日に宿泊される方は、特別の事情がないかぎり、懇親会への参加をお願いします。

◆12月3日(日) テーマセッション

- 7:00～ 朝食（各宿泊施設）
- 8:30 ※鷺の湯温泉から夢ランドしらさぎまで送迎予定。徒歩10分弱
- 9:00～12:00 テーマセッション（メイン会場）
- 12:00～13:00 昼食（弁当：メイン会場） 理事会（小会議室）
- 13:00～15:00 テーマセッション（メイン会場）
- 15:00～15:15 閉会式（メイン会場）
終了後、安来駅・松江駅・米子駅へバスで移動

【エクスカーション】

今大会のエクスカーションでは、安来の農産物と鉄の文化に関する施設を訪問します。

12月1日（金）午後、道の駅あらエッサにて、農産物（梨、いちご、ぶどう、タケノコなど）や海産物、加工品、特産物等を通して、安来の農林漁業の地域的特質について解説付きで見学します。その後、安来駅からほど近い和鋼博物館を訪問します。鉄の積出港として栄え、日本遺産にも登録された「たたら」の歴史と文化および鉄や鋼が農山村の暮らしや地域構造に与えた影響について解説を受けます。

エクスカーションとは別になりますが、足立美術館ないしは安来市立歴史資料館（月山富田城近く）への来館を希望する方は安来駅にてそれぞれのバス乗り場まで案内します。

【地域シンポジウム】

- ・テーマ： 安来を（創る・支える・伝える）
- ・報告者：えへひだカンパニー（市内広瀬町比田地区の地域組織・株式会社）
砂流牧場（酪農家）
どじょっこテレビ制作者（安来市のケーブルテレビ局）
- ・コーディネーター：福田恵、東良太

【大会参加費・宿泊費等】

	正会員	院生会員
参加費	3,000 円	2,000 円
エクスカーション（12/1）	3,000 円	2,000 円
宿泊費（12/1）1泊2食 ※右から1つを選択	12,000 円	7,000 円
	ゆったりタイプ 20,000 円	
	庭露天風呂付タイプ 30,000 円	
昼食費（12/2）	1,000 円	1,000 円
懇親会費	6,000 円	3,000 円
宿泊費（12/2）1泊1食 ※右から1つを選択	7,000 円	5,000 円
	ゆったりタイプ 15,000 円	
	庭露天風呂付タイプ 25,000 円	
昼食費（12/3）	1,000 円	1,000 円

*通常タイプは、4つの宿泊施設のいずれかの部屋になります。ゆったりタイプと庭露天風呂付タイプはさぎの湯荘の部屋になります。

**通常の部屋は4～6人部屋。ゆったりタイプ、庭露天風呂付タイプはさぎの湯荘の定員4、5人の部屋を2、3人で利用予定です。ただし希望者が多い場合は人数の変更や他のプランへの変更をお願いすることもあります。ご了承下さい。詳細は添付の「特別プラン（写真・間取り）」（PDF）及びHP（<https://www.saginoyusou.com>）をご参照下さい。

***すべてに参加する場合、正会員は33,000円、院生会員21,000円になります。ゆったりタイプ49,000円、庭露天風呂付タイプ69,000円。

**** 会員以外で参加を希望する方は、大会事務局までお問い合わせください。

【大会申込み】

- ◆Google フォームへの情報入力および下記の銀行口座への振込確認をもって参加受付とします。振り込みは、専用の Excel シートで各自計算の上、金融機関等で行ってください。振込手数料はご負担ください。

口座名義：奥井亜紗子

銀行名・口座番号：楽天銀行 タイコ支店 (242) 普通 2664052

◆Google フォームへの入力方法

- ・以下の URL にアクセスし、必要事項を入力して下さい。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdcFu8evceSpgvXIIImZCL18mpfEjaDBfc_5C7sWDaA0u94Plw/viewform?usp=sf_link

- ・入力項目は、メールアドレス、電話番号、所属、氏名、会員種別（一般会員、院生会員）、大会参加方法（対面、オンライン）、エクスカッション、12/1 の宿泊、12/2 の昼食、12/2 の懇親会、12/3 の宿泊、12/3 の昼食、宿泊部屋のタイプ、帰りのバス利用の有無等となります。
- ・申込み（Google フォームへの情報入力と会費振込）の締め切りは **9月30日(月)**です。

【受付】

① エクスカッションに参加される方

12月1日(金)13時30分までに、安来駅のバス乗降場所付近で受付を済ませてください。安来駅の出入り口は一カ所です。

② エクスカッションに参加されない方

12月1日(金)はさぎの湯荘で17時00分より、12月2日(土)と3日(日)は夢ランドしらさぎの会場前で受け付けます。

【託児サービスについて】

利用を希望される方は、9月末までに事務局までご連絡ください。

【会場へのアクセス】

◆車で来る場合

(各宿泊施設および乗用車400台の無料駐車場あり)

・山陰道安来 IC から約10分

※出雲空港から約50分、米子空港から約50分

◆空港から来る場合（空港から安来駅まで）

出雲（縁結び）空港～安来駅（連絡バス経由でJR利用）

- ・出雲空港の連絡バス乗り場で「松江方面」行きバス（一畑交通）に乗車、JR松江駅バス乗り場下車（運賃：1050円、所要時間：約35分）

<https://www.ichibata.co.jp/taxi-matsue/shuttle/>



- ・JR 山陰本線「松江駅」乗車、「安来駅」下車（特急列車 運賃：1510 円、所要時間：約 15 分、普通列車 運賃：420 円、所要時間：約 20 分、1 時間 1～4 本程度）

米子（鬼太郎）空港～安来駅

（連絡バス経由で JR 利用）

- ・米子空港の連絡バス乗り場で「米子駅」行きバス（日ノ丸自動車）に乗車、JR 米子駅バス乗り場下車（運賃：600 円、所要時間：約 30 分）

<https://hinomarubus.co.jp/route/airport/?tab=2>

（JR 利用）

- ・JR 境線「米子空港駅」乗車、「米子駅」下車（普通列車 運賃：240 円、所要時間：約 30 分、1 時間 1 本程度）

<https://www.yonago-air.com/access/train>



- ・JR 「米子駅」乗車、「安来駅」下車（特急列車 運賃：960 円、所要時間：10 分弱、普通列車 運賃：200 円、所要時間：10 分弱、1 時間 1～3 本程度）

◆列車の場合

（岡山方面から）

- ・JR 岡山駅で伯備線特急やくも出雲市行乗車、安来駅下車（運賃：11680 円、所要時間約 2 時間 20 分）

◆JR 安来駅からバス利用の場合

（安来市公共交通イエローバス・米子～広瀬線）

- ・安来駅乗車、鷲の湯温泉・足立美術館前下車（運賃：200 円、所要時間：約 20 分）

<https://www.city.yasugi.shimane.jp/kurashi/sumai/yellow-bus/yellow0504.html>

*8:00～20:00 まで 1 時間に 1 本程度運行。20:00 以降に到着する場合はタクシーをご利用くだ

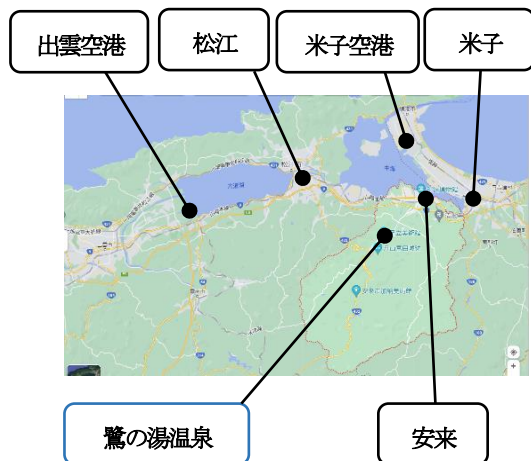
さい。安来駅からさぎの湯荘までのタクシー料金（約 3600 円、深夜 4500 円程度の見込み）。
タクシーがない場合は、大会事務局（東）までお電話ください。

◆帰路

・安来駅、および空港への連絡バス乗り場がある松江駅、米子駅まで貸し切りバスを用意します。

※出雲空港ご利用の方は松江駅行き、米子空港ご利用の方は米子駅行きをご利用ください。

◆周辺地図



◆鷲の湯温泉内地図



※夢ランドしらさぎと他の宿までは700メートル（徒歩10分弱）

【大会事務局】

・福田恵（大会実行委員長） satoshif@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8521 東広島市鏡山 1-7-1 広島大学大学院人間社会科学研究科・総合科学部

研究室電話：082-424-6342 携帯電話：090-1136-1939

・奥井亜紗子（会計・大会申込み担当） okuia@kyoto-wu.ac.jp

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35 京都女子大学現代社会学部
研究室電話：075-531-9180

・東良太（交通・アクセス担当） azuma-ryota@pref.shimane.lg.jp

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島 1207 島根県中山間地域研究センター
職場電話: 0854-76-3846 携帯電話: 090-6820-4321

Ⅲ. 第 71 回（2023 年度）大会 自由報告の募集について

自由報告は 12 月 2 日に対面で実施します。

報告希望者は、GoogleForms を通じて、エントリーと、報告要旨の提出をお願いします。
（日本村落研究学会ホームページのお知らせにリンクを掲載しています）

【自由報告エントリー】

締切 7 月 31 日

提出事項: 報告者名、所属、報告タイトル

<https://forms.gle/rd13CTs3TUgWAPHn9>

【報告要旨】

締切 8 月 31 日

提出事項: 報告要旨 (1200 字程度)

<https://forms.gle/trjMt76zUQPrKhdu5>

※GoogleForms からのエントリーがうまくいかない場合は、電子メールにて以下のアドレスにご連絡
ください

sonken.jiyuhokoku2023@gmail.com

※自由報告についての郵便での連絡先は下記のとおりです。郵便への対応は、出張等により遅れる
場合がありますのでご了承下さい。

〒101-8375 東京都千代田区三崎町 日本大学法学部 9603 研究室 原山浩介 気付
日本村落研究学会研究委員会

Ⅳ. 日本村落研究学会賞選考委員会報告

2023年 2月 28日発行「研究通信 No. 266」において、2023 年度「日本村落研究学会研究奨励
賞」の推薦を会員の皆様に 2023年 5 月末までお願いいたしました。推薦期間内に 2件の推
薦があり、現在、選考委員会を組織し、選考作業を開始しております。今秋の2023 年度村研大
会にて結果をご報告いたします。

(山内太)

Ⅴ. 地区研究会活動報告

○2023年度 村研ジャーナル編集委員会主催研究会（関東地区研究会共催研究会）

「東アジア地方社会にみる人口移動と親族文化の変容」

【日時】2023年6月18日（土）13:00～16:00

【会場】跡見学園女子大学文京キャンパス（対面とオンラインでのハイブリッド開催）

【報告】司会：福田恵（広島大学）

報告者・報告タイトル

前野清太郎（上智大学）「台湾における地方社会と「伝統的な」家族」

鈴木洋平（拝島大師職員・東京都市大学非常勤講師）

「台湾雲林県北港地域における親族墓建立」

高村竜平（秋田大学）「韓国・済州島の「家族共同墓地」が示すもの」

コメンテーター：北島義和（釧路公立大学）・越智郁乃（東北大学）

2023年度村研ジャーナル編集委員主催研究会が、関東地区研究会の共催のもと、対面とオンラインとのハイブリット形式で実施された。参加者は対面参加12名、リモート参加8名であった。

本研究会は「東アジア地方社会にみる人口移動と親族文化の変容」をテーマとしながら、「海外研究は、日本の農業・農村についての研究を蓄積してきた村研にとって、どういう意義を持つものなのか」という問いを投げ掛けるものであった。3名の報告者と2名のコメンテーターに加えフロアからの質問により、大変刺激的な研究会となった。簡単ではあるが内容を紹介させていただく。

第1報告は、台湾において、家屋が「家」によっていかに拡大・継承されているのかを事例から示すものであった。敷地面積を広げられず「均等」に相続できないことを理由に管理が放棄されるケースもあれば、農地の転用により拡張することにより「均等」を達成しているケース、子世代・孫世代さらに子孫の数に対応するケースなどがあった。「均等」をベースとした相続の難しさや「均等」の解釈から柔軟性を垣間見ることができた。

第2報告は、台湾雲林県北港地域における親族墓について、主流であった個人墓からの移行を政策の展開から説明したうえで、親族墓の形式が多様化する様子を事例から示した。「墓の形式よりも、墓参という行動の維持に重点」が置かれていることが指摘された。今後、納骨塔への移行が想定されるなか、墓（骨）の管理方法からでは親族文化のあり方を捉えられなくなる可能性を示唆するものであった。

第3報告では、済州島における「家族共同墓地」を例に、1960年代までは島外への出稼ぎにより、日本の国土へ生活の場が繋がっていたがそれが希薄化していく様子と、観光開発を機に墓地を集める動きが示された。複数の墓地の管理を余儀なくされている実態や土葬と火葬が混在している実態が示され、様式が変化しても先祖を弔い続けることの意義を物語っていた。

以上のように、各報告は親族文化を象徴する「家屋の管理」「墓の管理」が、人々の移動に加え、親族が世代を重ねていくことで、どのように変化しているのか、そして「家族」とは何か？を、それぞれの角度から問う内容となっていた。事例の対象地域となった台湾および韓国・済州島は日本と共通して島という制約があり、そこに移動の特色を捉えることができる。研究会全体として「海外研究が持つ意味」を検討することが意識されていることから、それぞれの報告に関しては議論の余地が広く設けられていたように感じる。

コメンテーターの北島義和会員からは、各事例について「実体」としてではなく、「出来事」として捉えるのかという確認を踏まえて、「アジア」「地方」「農村」がこれらの出来事にどのように作用しているのか、といった質問があり、続く越智郁乃氏（非会員）からは、企画全体に対し、島であることは既存の村落研究と比較してどのような特異性があるのか、といった質問があった。また、それに続きフロアから、報告事例における兄弟で協力して相続する均分制と、日本の単独相続との違いに関連する質問などが挙げられた。

筆者は国内を中心に農業・農村を調査研究しており、他国にはフィールドを有していない。そのため、地理的条件から見れば類似する台湾と韓国・済州島の事例における家屋と墓（骨）の継承のあり方やその変容ぶりはとても新鮮なものであった。そして、本研究会を通して、他国の事例が、日本国内の文化的特性や政策の影響を捉えることに有効であることを改めて感じる事ができた。ご報告ならびにコメントをいただいた3名の会員ならびに非会員のお二人、そしてご参加いただいた会員の方々に感謝したい。

(小林みずき)

VI. 新入会員の紹介（略）

Ⅶ. 学会費納入のお願い

今年度の学会費をお納めくださった会員みなさまに感謝申し上げます。
まだお納めでない方は、なるべく早くお納めいただきますようお願い申し上げます。
村研の会計年度は10月1日より翌年9月30日までとなっております（2023年度は2022年10月1日～2023年9月30日です）。

■学会年会費...正会員：8,000円、大学院生会員：2,000円

学会費のお振込は例年どおり基本的には銀行振込（バンクチェック）方式でお願いしております。
以下の「銀行振込の手順」に従い、お振込をお願いいたします。

◆銀行振込の手順

◇SMOOSYの手順

- ①村研ホームページにアクセスする。
 <<https://jars.smoosy.atlas.jp/ja>>
- ②トップページ左上にある「会員の方はこちら」をクリックする。
- ③SMOOSYにログインする。
- ④ログイン後に表示される「会員マイページ」にて、
 請求／入金情報の右端にある操作「¥支払う」をクリックする。
- ⑤「お支払いに進む」をクリックする。
- ⑥振込情報とお客様情報を入力し、「次へ」をクリックする。
- ⑦「決済申込」をクリックする。
 ※この時点で、振込処理はまだ完了していません。

◇銀行振込の手順

- ⑧「銀行振込決済の受付が完了しました」のメールが届いたことを確認する
 ※迷惑メールに振り分けられることがあるので注意
- ⑨メールに記載の決済金額を振込先口座に振り込む
 【決済金額】 ¥X,000
 【振込先口座】 りそな銀行 アース支店 普通 XXXXXX

※請求書、ご入金後の領収書は「会員マイページ」よりダウンロード可能です。

※会員マイページでは、2022年度までの会費に未納がある場合、その分も表示されます。

納入期限が過ぎていても請求書に記載されている振込口座番号は変わりません。

システム上「一請求・一口座番号」になるため、合算してのお支払いができませんことをご了解ください。

※なお、銀行振込が難しい場合は、以下の村研郵貯振替口座からのお支払いをお願いいたします。

口座名 : 日本村落研究学会

口座番号 : 00150-9-387521